



NPO法人暮らしネット・えん 20年の歩みを振り返って

えんが NPO になって 20 年が経過した。81 歳の今まで、まさか現役で仕事をしていることなど想像だにしていなかったが、共にいられることに感謝しかない。

今えんの 20 年を振り返る時、その前の 10 数年を忘れるわけにはいかない。その時間がなければえんは生れてなかったのだから。1990 年頃、私たちは 2 人の全身性障がい者に出会った。地域で自立した在宅生活を送りたいという 2 人の願いに、ボランティアが集まり、介助だけでなく、地域での様々な活動と一緒に、「地域で共に」を実践してきた。しかしボランティアで行う限界を感じ、堀ノ内病院に在宅福祉部門として受け入れていただき、1996 年「ケアサポートステーション MOMO」開始。新座市の事業委託を受けプロとしての一步を踏み出した。そして NPO 法が成立し、介護保険が始まった後の 2003 年 NPO として再スタートした。

この間に培われた「介助（介護）する・されるの関係を越えて、地域で共に暮らし繋がりを作る」という思いが、えんに引き継がれ、今に至っている。ケアの質を高め、職員間の意思疎通を図るための研修やミーティング、コンサートなどの文化活動を通して地域の繋がりを深めることも。コロナ禍を経て昨年 4 年ぶりにコンサートを開催した時、懐かしい顔と溢れる人の波に、音楽が人を紡ぎ、えんが人を繋いでいることを実感した。

一方、介護をめぐる社会情勢は厳しく、弱小の介護事業所は閉鎖に追い込まれ、NPO 設立当初にお世話になった先輩 NPO も規模を縮小せざるを得ないと聞く。そんな中で経営のプロがいる訳でも、資金が潤沢にある訳でもない私たちにできることは、今までどおり目の前の地域の課題に真摯に向き合い、地域にとって必要なことを積み上げることだろう。介護保険は改悪を重ね、使い勝手の悪い制度になってしまった。それでも私たちは利用者・家族に寄り添い、慣れ親しんだ地域に暮らし続けられることを支援し、地域の方々に支えられ、今では介護保険・障がい福祉サービス他 8 事業、働く人 120 人の所帯となっている。

この先 20 年をどう生き抜いていくのか。働く人達の生活が守られなければ、利用者の生活を守ることはできない。事業所の閉鎖などあってはならないのだ。これまでもえんの役割として小島代表が社会的発言をリードしてきたが、黙っていては介護保険や障害者支援制度は衰退するのみ。何とか歯止めをかけるべく、皆で声を挙げていこう！